

本刀  
毛當  
敷皮  
糸配  
團  
團  
鏡  
磨



子

明

四

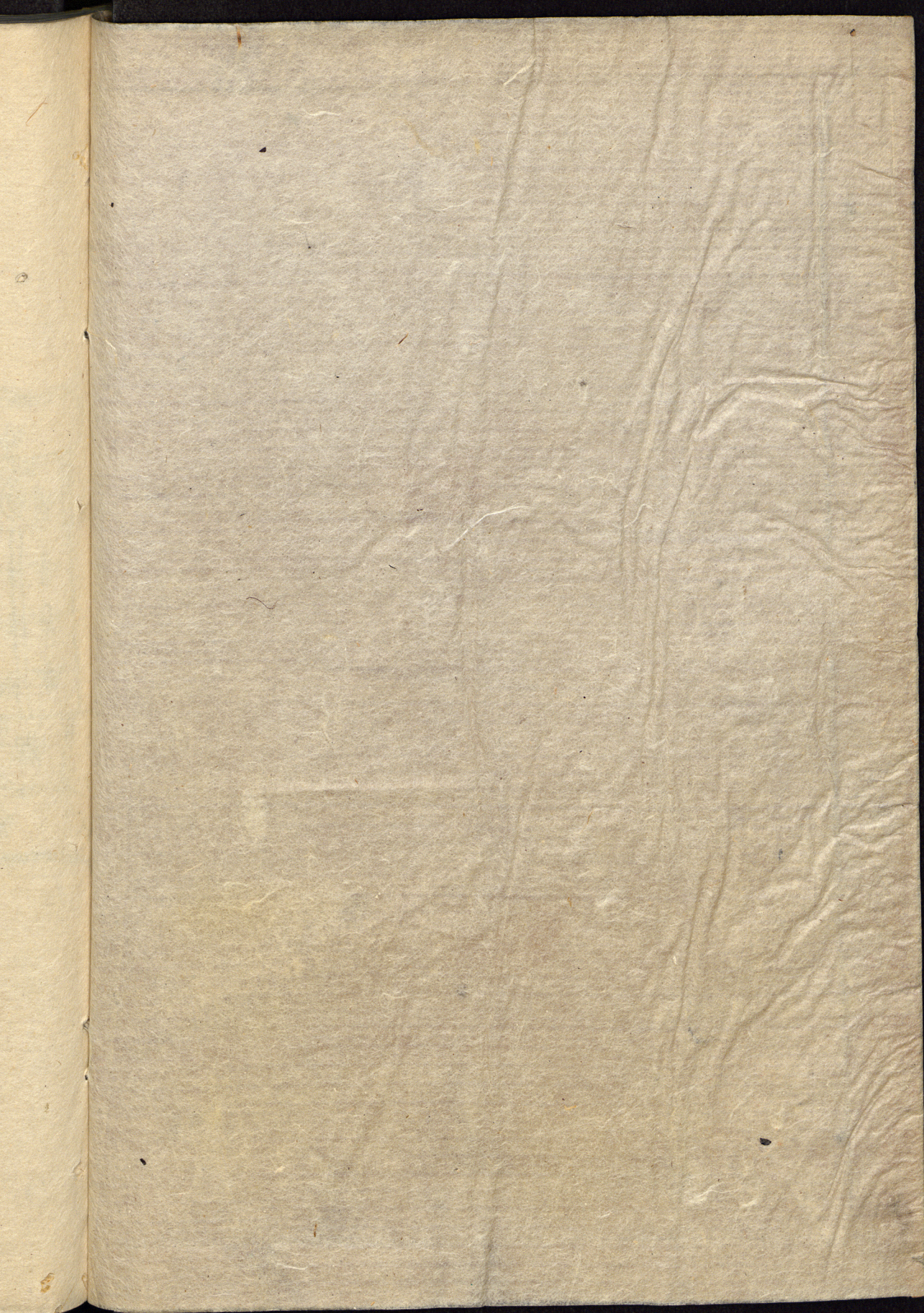
AF

JAP

304

(11)







ありふ

子





34

35



# カフカ子

カフトカ子長サトカリニテ一寸八分  
 同ハ一寸三分

鞭結



紋二十三







足ノ紋如此

足ノハ一寸五分  
長サ二寸

モノ有所カ  
ワ先ヨリ二寸  
五七分

足間五寸







前同

八同前長



16



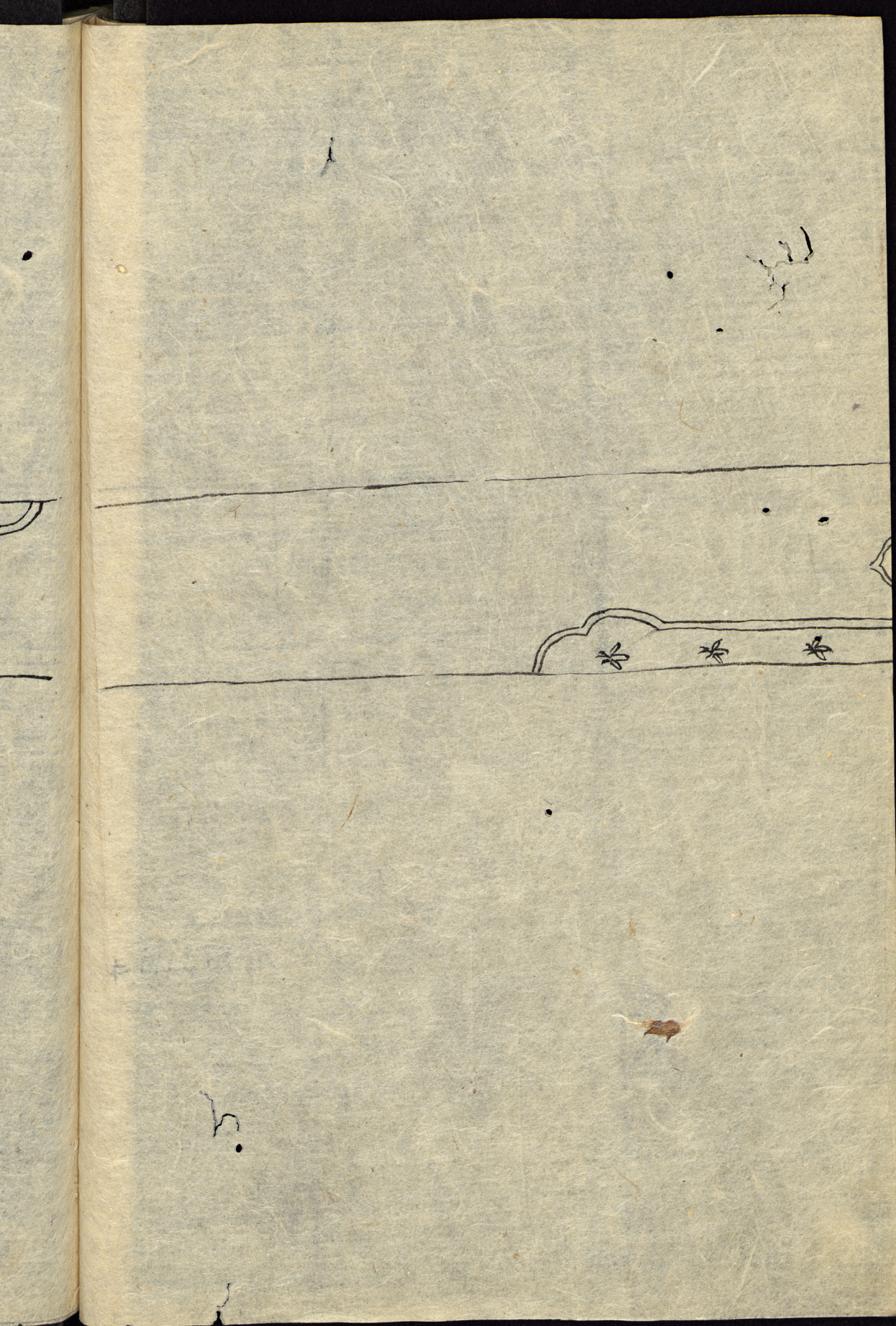
一  
モ  
セ  
六寸八分

一  
ノ  
セ  
メ  
紋  
教  
八ツ

カ  
11  
4  
11  
4

カ  
11  
4  
11  
4







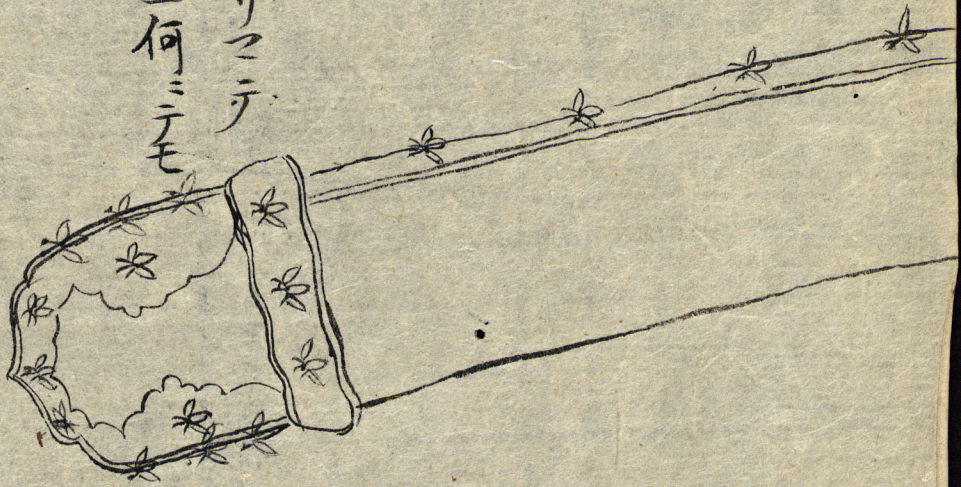
芝引長サ寸三  
 紋九ツ但紋先石  
 実ノ方ハムク



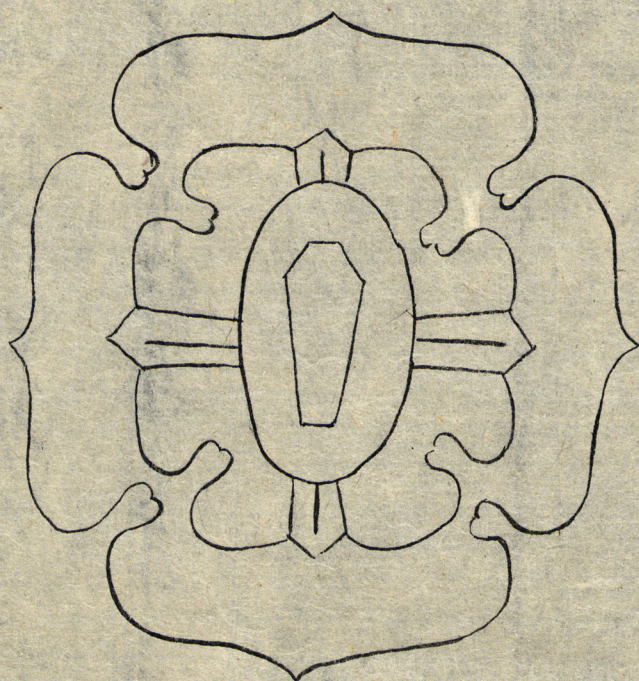
ニノセメト云紋救八ツ  
 紋ノムキヤウ何モ同



石突ノ長サトカリニテ  
一寸六分紋敷止ニ何ミテモ  
家紋ヲ付ル也







鋳  
本



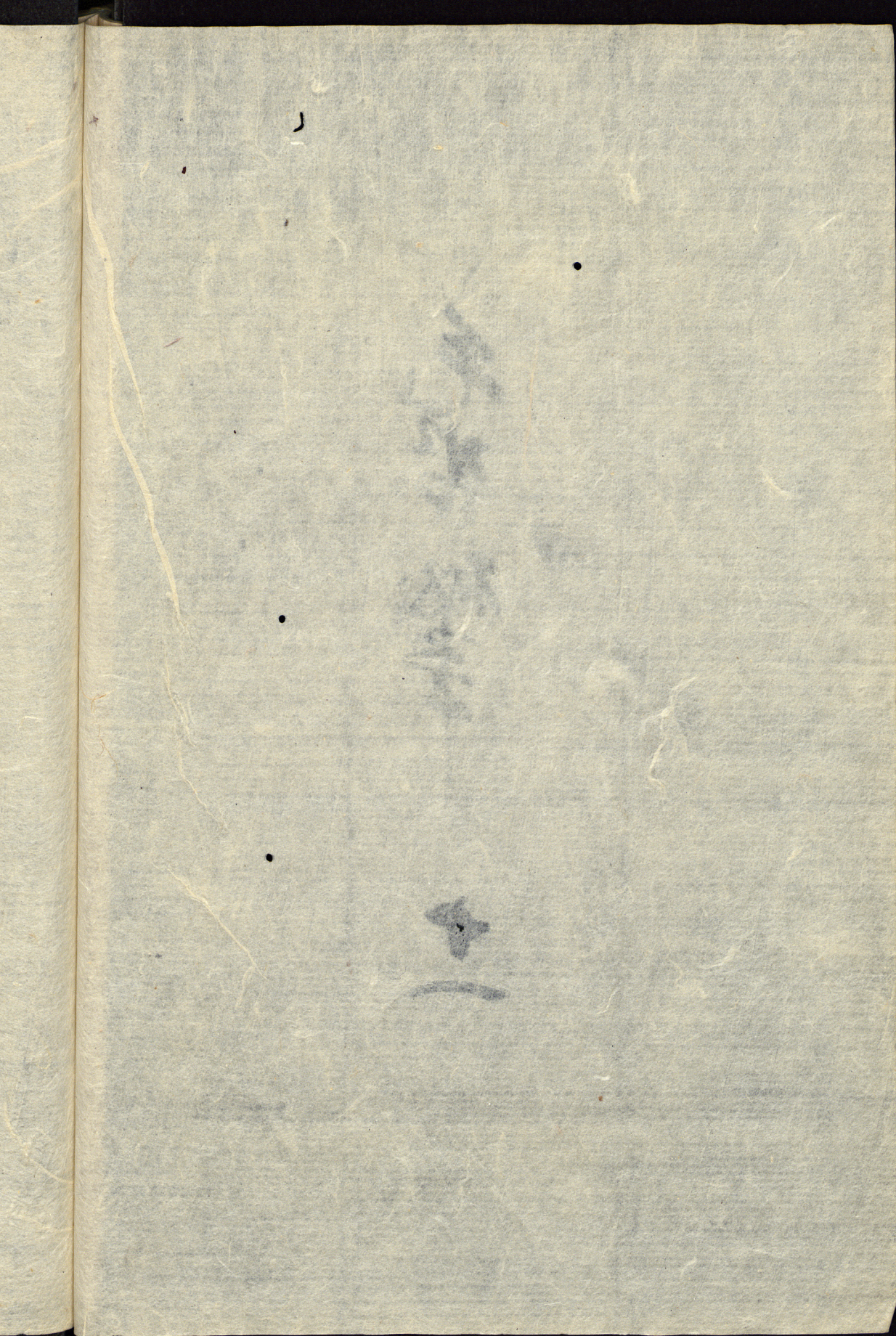
衣一卷去尚家清來之雖  
為秘書物心亦所依憑也  
曾今授與平用可之并據  
此見池之有之矣也



毛帶秘事

十一







毛沓秘術

一毛沓ト云ハ胎金兩部之字一躰之

形成カ故佛陀<sup>ニ</sup>テハ髡高ト云神道<sup>ニ</sup>テハ

沓ト云武士<sup>ニ</sup>テハ毛沓ト云テ軍術トスル



天竺<sup>ニ</sup>テハ獅子之皮大唐<sup>ニ</sup>テハ羊之皮  
日本<sup>ニ</sup>テハ熊之皮<sup>ニ</sup>テ作也

一毛沓之内ヲ錦<sup>ニ</sup>テ張ヘシ同毛之皮<sup>ニ</sup>テ

大緒<sup>ヲ</sup>立ヘシ左之毛沓之鼻<sup>ニ</sup>五之皺

有ヘシ合テ二因縁<sup>ヲ</sup>表スル

一毛沓之内ヲ祭衣<sup>ニ</sup>履之時辰之方之

水ヲ取硯水<sup>ニ</sup>入此術<sup>ヲ</sup>可書



亥 亥 亥 亥

列 列 列 列

亥 列 列 列 列

列 列 列 列

亥 亥 亥 亥

尤之毛沓之內  
錦是畫二



亥 亥 亥 亥  
 亥 亥 亥 亥  
 亥 亥 亥 亥  
 亥 亥 亥 亥

右之毛書之內  
 書之



一 毛沓之誦文曰

愛深之弓箭ニ向怨敵ハ的成テ射放  
サレケル此咒ヲ滿ハ毛沓ヲ不踏共毎日  
一返ツ、修スル其日之怨敵悉ク滅亡無  
疑者也毛沓ハ其時ニ當テ可著也

一 負軍ニ討死セント思テ是毛沓ヲ著右咒  
滿テ敵ニ向フナラハ七日之内ニ可滅處無  
疑者也



一 其城ヲ取除時此毛沓ヲ左計着右之  
毛沓ヲ城ニ殘置ナラハ一世敵其城ヲ持  
更不可有是ヲワルト云

一 敵之中へ懸入時心セヲクハ敵味方ヲ見テ

セ見透ヘサル更四方四寸之紙ニ此并取  
ヲ書



馬騁陰如律令



是ヲ書テ毛沓向テ咒滿并ニ認鏡之  
袖付ヨ

一 寢屋之枕之祕吏一世人ニ不眼祕術ニ  
馬フシ紙ヲ七寸四方切テ此并ヲ可書

蠶鬼歎唸々如律令

此并月研ニテ可書左之毛沓之内ニ  
置ヘシ一世人ニ不眼万災難ヲ遁ル

一 城籠事難叶時必一戦ノ可勝度毛



沓ヲ著シ鬼門之方へ七足歩ヲ旗之鳩居  
件之水研水ニテ此符ヲ可書

咒國鬼噫如律令

卅

如此書ニ旗ヲ辰之方へ向テ大將軍毛沓ヲ

著ナカラ一合戰セヨ必可勝敵敗軍無疑者

一軍之門出大成凶事有時吉吉ト成テ

出陳スル事

罔國昌鬼噫々如律令



此符書テ紙ニ認テ鑲之袖ニ付ヨ大吉ト成ヘキニ

一具惡方惡目ニ可爲出陳克鬼門之方向テ

毛沓ヲ向左着ノ七足歩テ鷹之羽矢一ツ

鬼門（可射矢取咒之）南無梵天帝

歎天地中央四天大土ト七返修テ射ヘシ右之

掌之内ニ鬼ト云字ヲ書テ馬彙納テ缶

開ヨ可爲大吉トシ

一認時九字十字色々口傳多キニ



右條：秘術代々當家傳處明鏡也  
千金莫傳可秘々々

小笠原大膳大吏

長時

同

右近大吏

貞慶

小池甚之助

貞成

片木三之助尉

正成



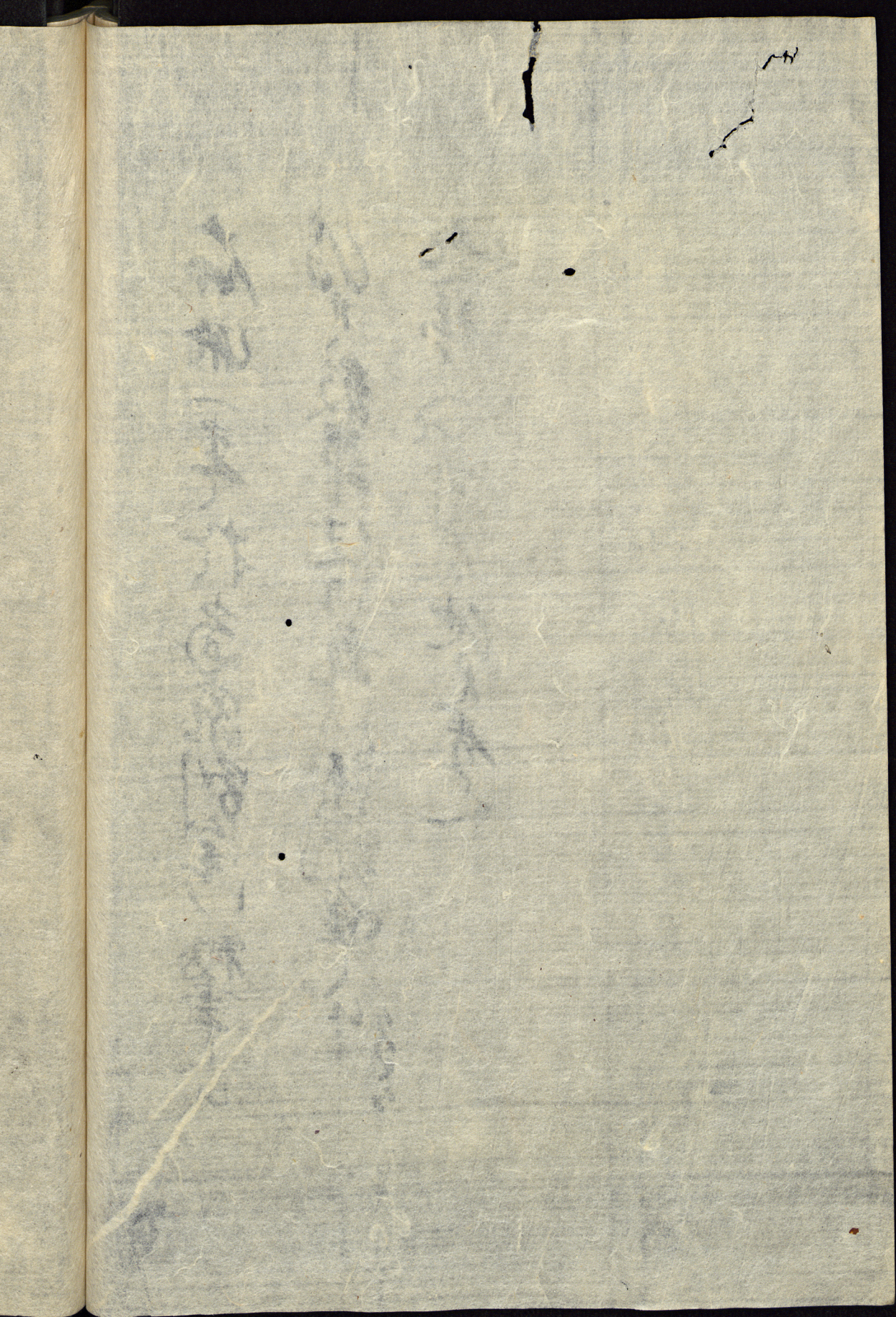
右世一事於商家別涉秘事

切其數年任市執心誌記進

くい  
うら

起稿又可有他見者



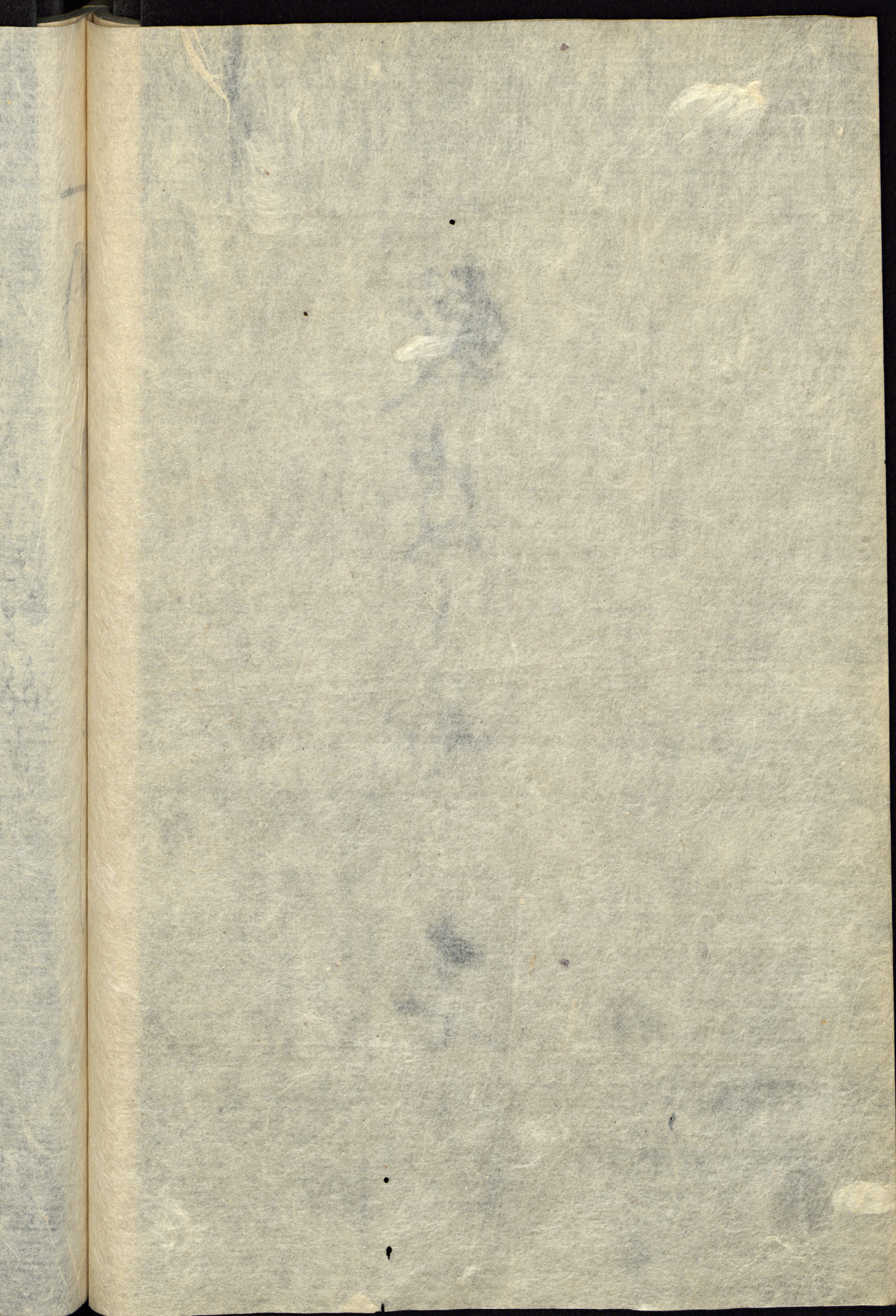




教皮書

十七







鼓皮









へく白毛と残る

一 黒草め縁やぬく一色に

くハ見ふくさくさく腰帯も

縁と同一年らる

一の場と敷付ハ的乃方へ白毛を

ねえ一類はくさくさ後る来

一 軍陣めくさくさの上へお時

くさくさ後らる

一 牛人の留乃鮑敷へ一系へ

くさくさ後らる



毛乃字之他一月生為者也

小益原大膳方丈

長時

同

右近方丈  
自渡

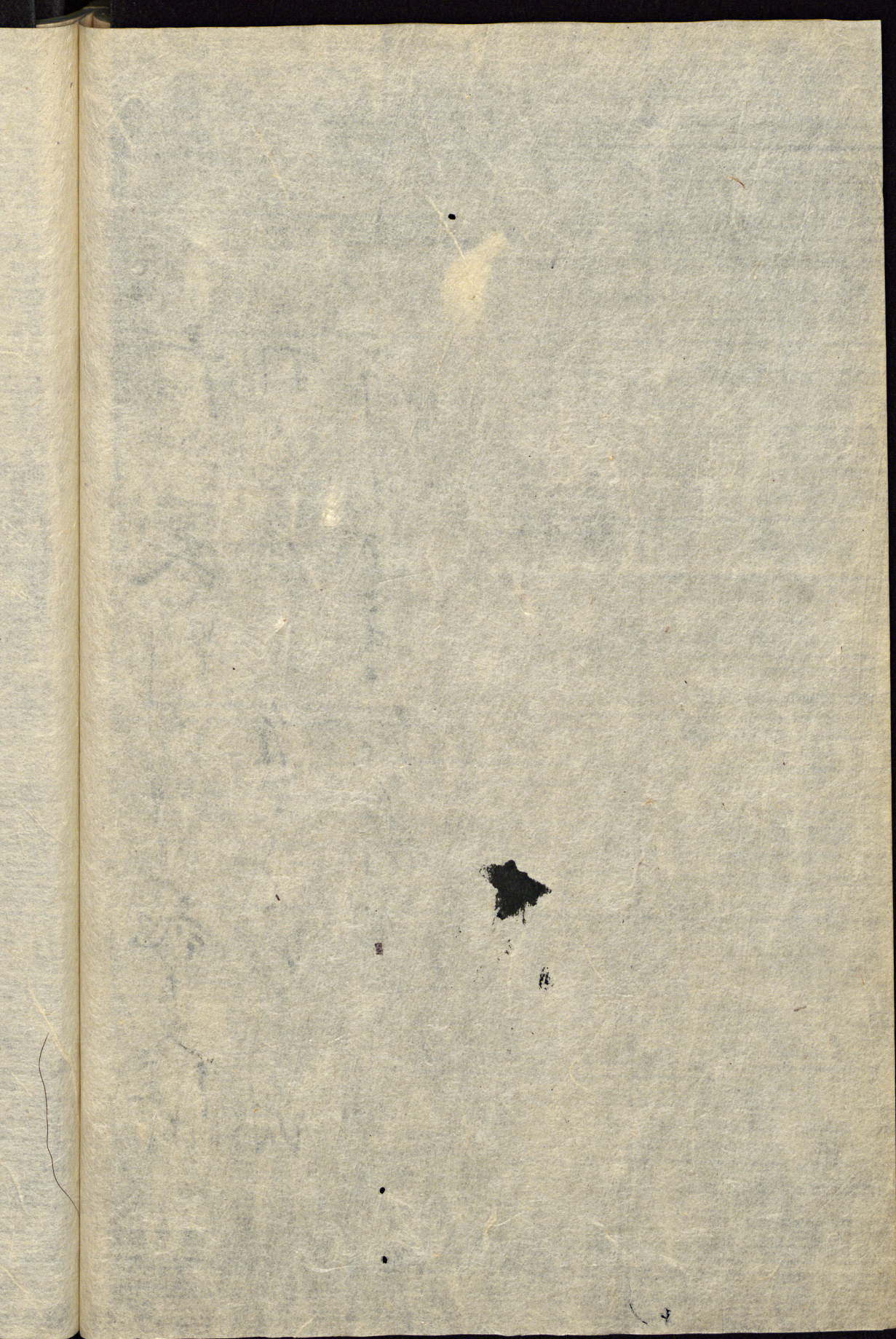
小池基忠

自渡



太此一卷別名論方秘變傳  
執人無記進人智疎  
早見可名終日者也





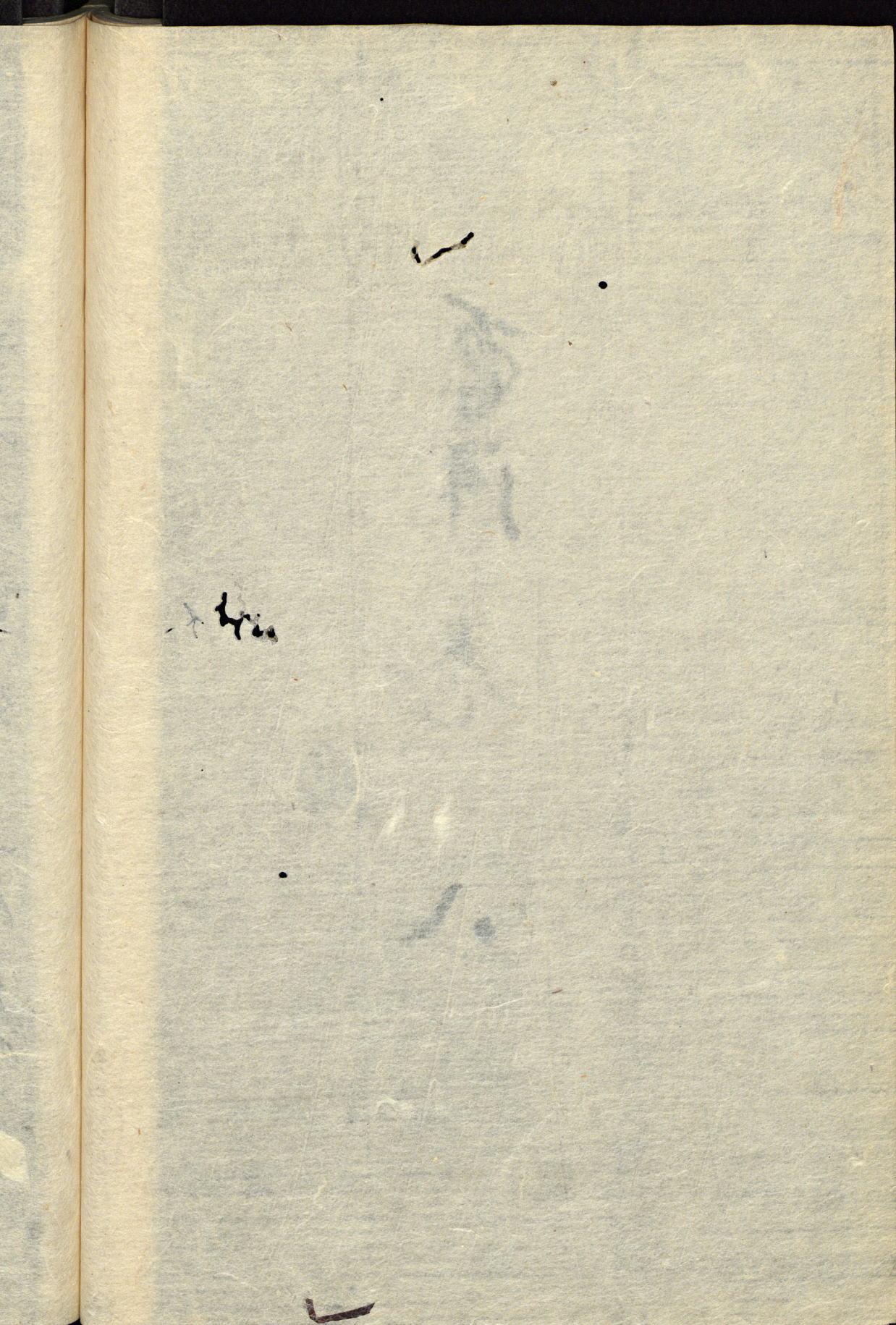


再評卷

八

附







再汗と巻



又宋幣の施又家記を記宋牌<sup>牌</sup>を書

呂振<sup>呂</sup>の麻<sup>麻</sup>之<sup>之</sup>和<sup>和</sup>振の宋幣<sup>宋幣</sup>の

幣<sup>幣</sup>也宋<sup>宋</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>刻<sup>刻</sup>も幣<sup>幣</sup>に<sup>に</sup>実<sup>実</sup>の<sup>の</sup>お

有<sup>有</sup>友<sup>友</sup>こ<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>世<sup>世</sup>金<sup>金</sup>限<sup>限</sup>の<sup>の</sup>紙<sup>紙</sup>を<sup>を</sup>延<sup>延</sup>子<sup>子</sup>延<sup>延</sup>等<sup>等</sup>紙<sup>紙</sup>



用分ハ略儀之白米幣ハ串と玉塗  
赤米幣ハ本皮と具一凡進出  
合儀委々述す此要義

一此本ハ桐葉軍本也漢軍と云々

一此一ハ本ハ好ハ中なり

一此此長老ハ本ハ横々す本内とす乃金

平月ハ作ハ本ハ此ハ本ハ本ハ本ハ

又本ハ本ハ本ハ本ハ本ハ本ハ本ハ



又其寸重て必極月より月半以下

子家元金は有根を成かひて

丁又半長きふすをすす

与又陰陽有法の串は二ふ六陽

串は二ふ串と八角とするをす

八分与腕其の穴串はより二寸を

多明處と云

一緒ハ葉草馬草草馬草ハ類

其類ハ其好より一葉ハ斜切や



長三人守りて楊より守るを無く  
造る一三方船キ等守り長は  
鎧の環おりの端に付てあすきあ  
まり又腰に杖事なるあり

一 龍乃長守り

一 再洋母夫人の担頭より持あり

一 又此より諸軍をばり事 図ふ同



五言古詩

以況之海濱

麦



袁本号月

求立原府將監統最

[illegible]



右一卷古雷家什來記

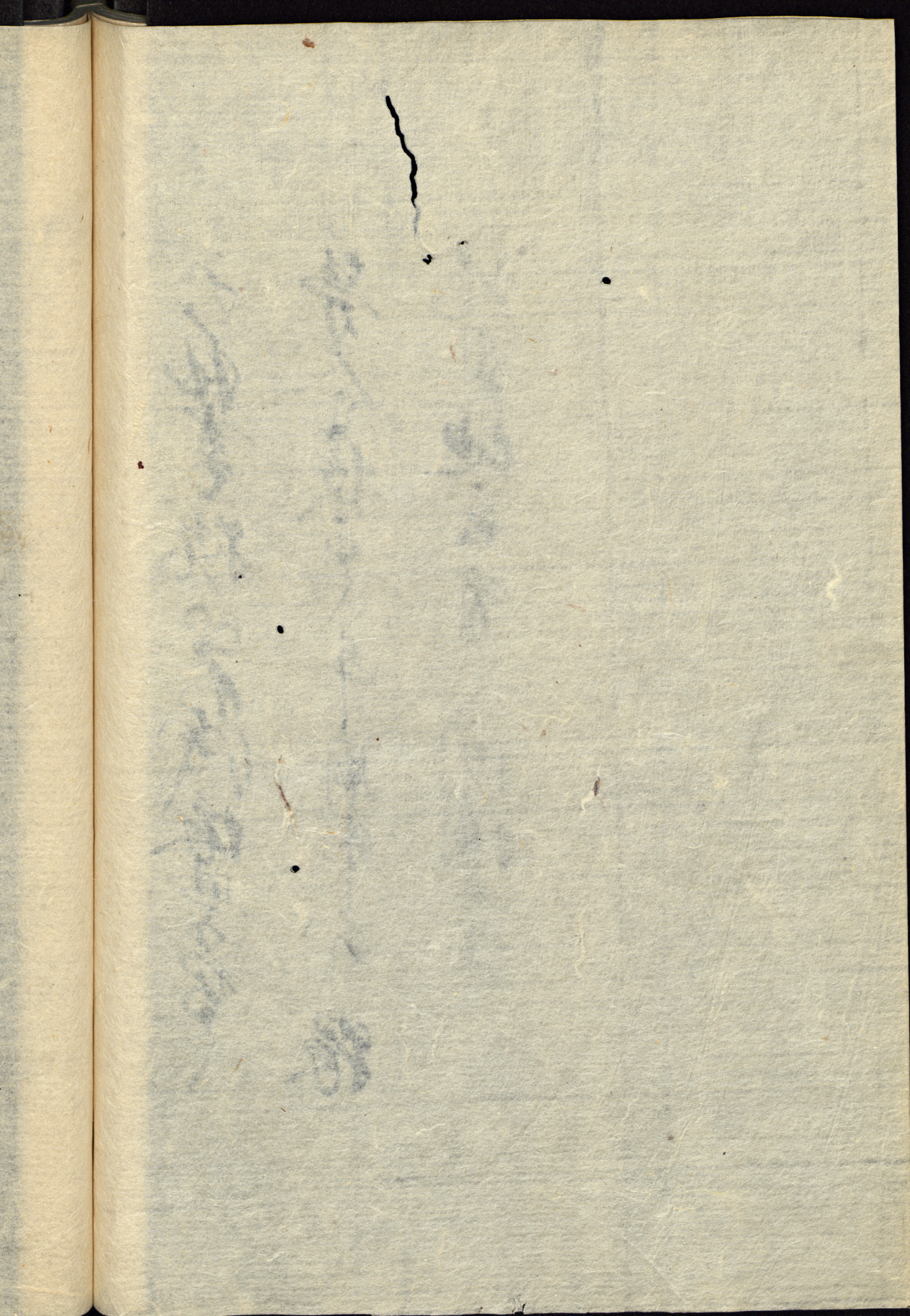




右一卷書家仁安

為書執心不淺依學  
勞令校占平用和介根  
他見他云有回浦者







圖卷

北



國

李

子



柞岡の矢武と遊志雅此方と信るに  
 面と漢書と拂ふ外送より成所  
 板紙繰とゆふ女書と共く安信の  
 貞徳と先祖攻られ時と西河と龍  
 へは岡中と軍條とふ利あり軍監  
 へ用よりて軍利の助あり故決とあり



幅谷厚子界園  
付市柄と宛園

幅谷厚子界園  
付市柄と宛園



とき戸ハ中秘海にまゐる

幅六分厚二尺分圓一尺あり柄と刻圓  
と入所と稱としてト入所守分編  
尺の如く柄先より守重く穴との腕貫  
の紐とけり緒のも或は紐編でき人  
様と云ふ圓のふく朱とて片西十二  
星或は日取の長湖以の千端の附刻書  
家々の秘術なりト又軍記と云ふは  
とき戸八分ありて大根大儀大統のまゝなり



固く將軍は精しく武勇に依るは先

づから

一國を執て貴人之後小の時に事ありて

その言を我道に極を盡して右を執た

る是と臨うけて常用最りたてを極に

一等有れども今時に來るは其より

一禮して

軍兵と押あつたる右ついでいふ



軍兵と相つたなりを

又少くもつて

一進む軍兵とい押止ふ國とな

手ふさぐ一を方おさへ

前つてつて

一敵と折つたなりを折る

一國の進退を二國とす

一國と折つたなりを二國とす

折一先と耳を固く又を固く



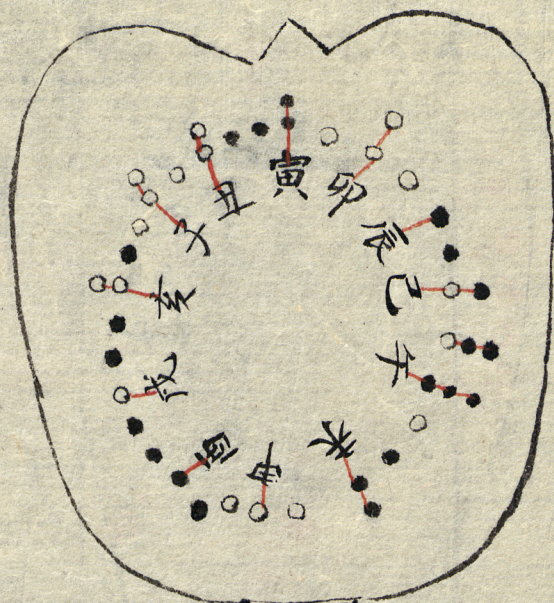
やもえ

一 款の人殺と括ふ箇の先よりこの箇の  
人殺と括ふは重なりて括えます  
一 款の掛付馬首上と箇より  
右二つを括ふと方角の股で  
致て軌款と成る









正  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二

勝  
 同  
 同  
 同  
 同









人の名字官姓名宗の書入也

小笠原左近將監源統最

龍

夫諸童子  
以為給便  
刀杖不如  
毒不能害

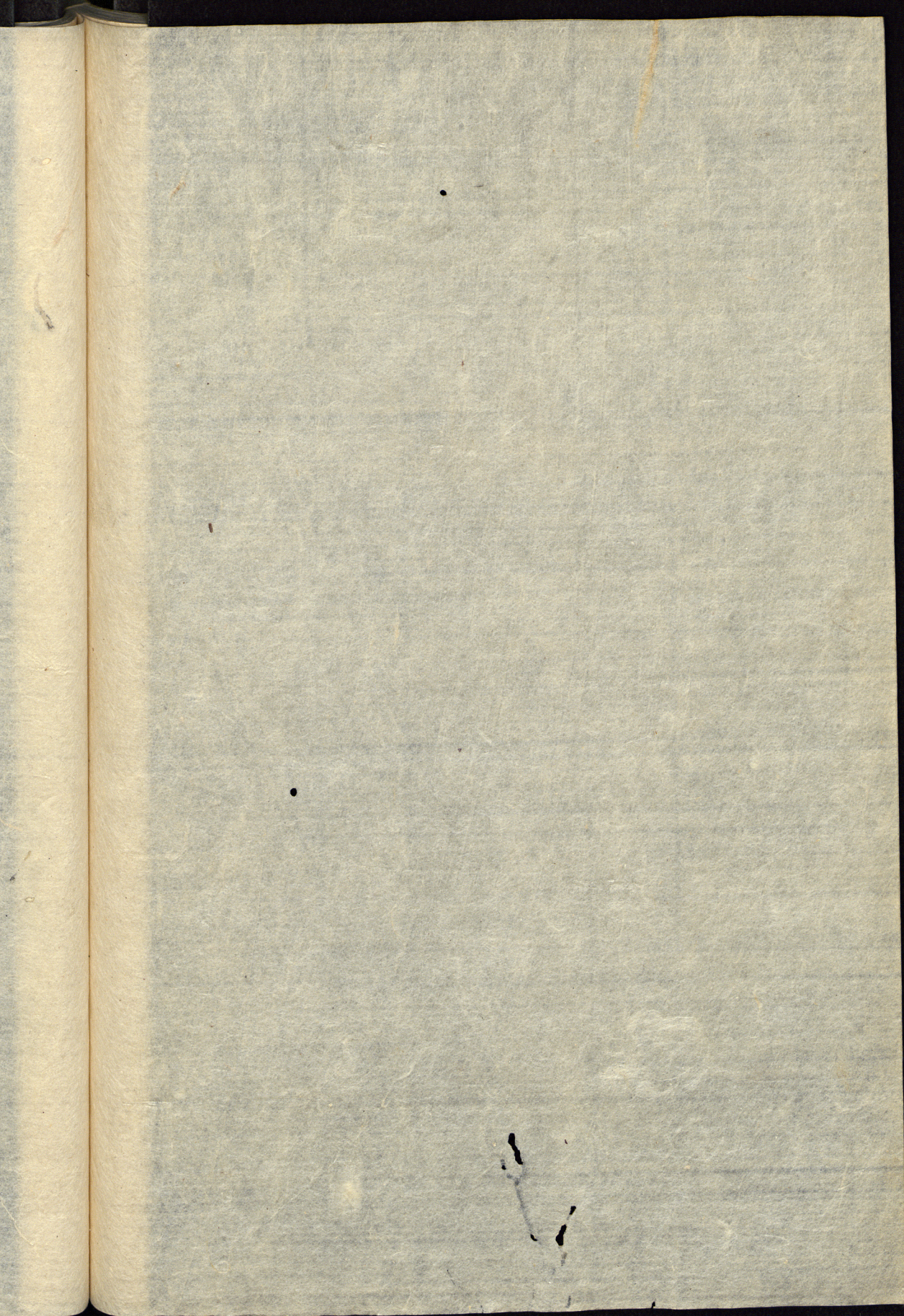
圖表小記  
事書多  
少不實

所記不實



Handwritten text in Chinese characters, likely a signature or title, located on the right edge of the page.



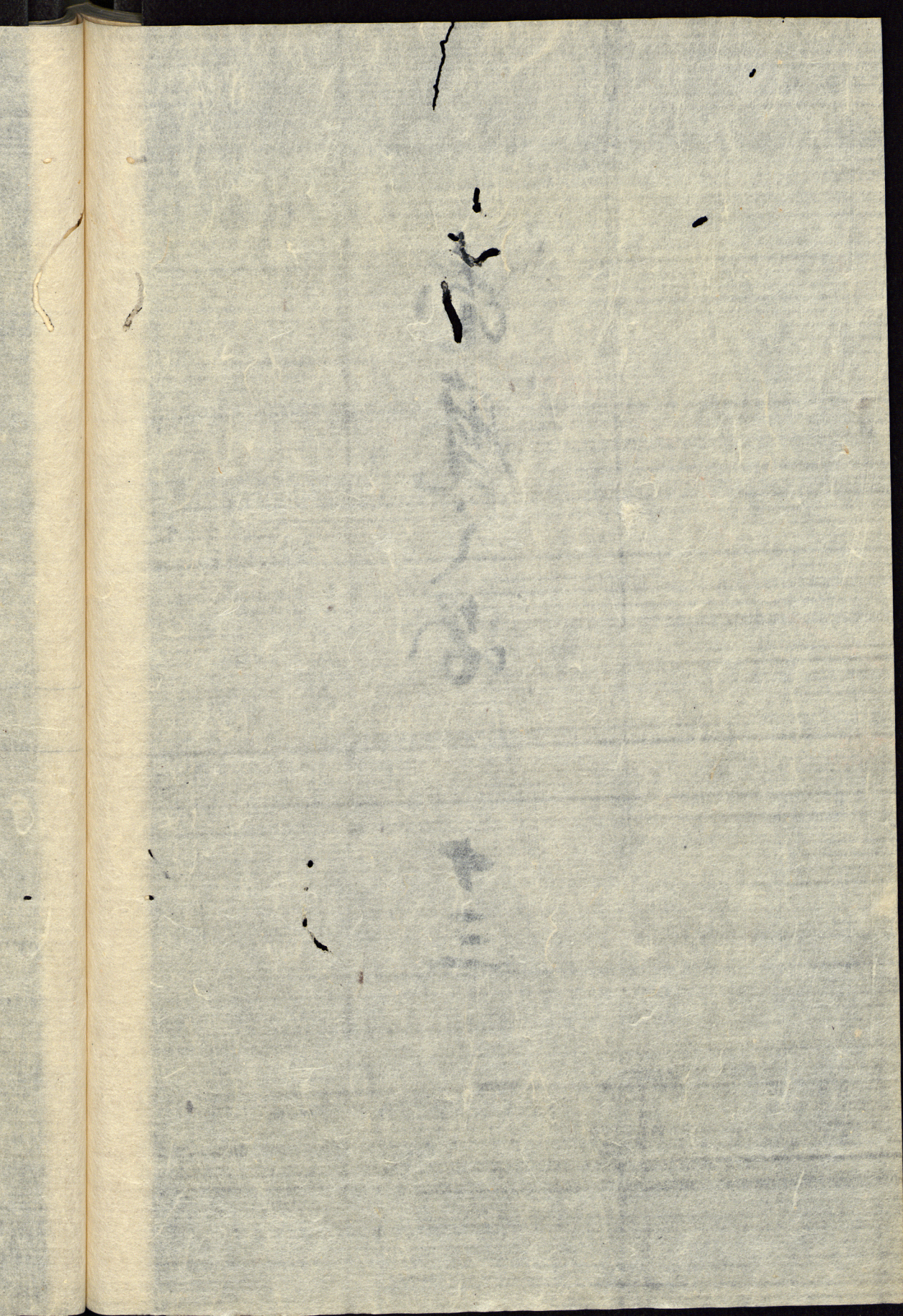




卷之三

十三







團魔之圖

武家





ふ

國泰

い



事

うてゐます

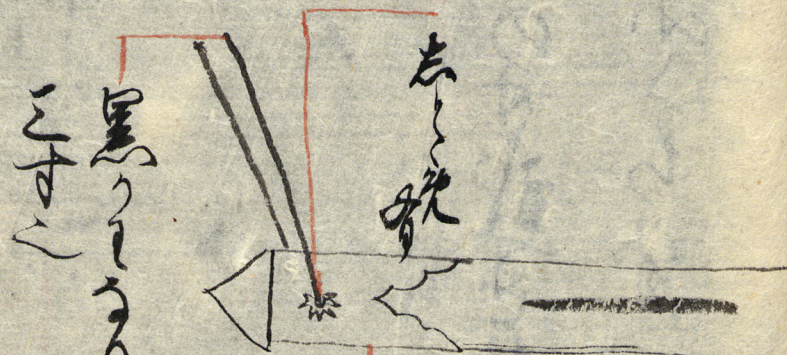
おとけしあか  
あゝあ

勝木

あゝあ  
あゝあ



し



黒いところ  
こま

木  
秋

きりし

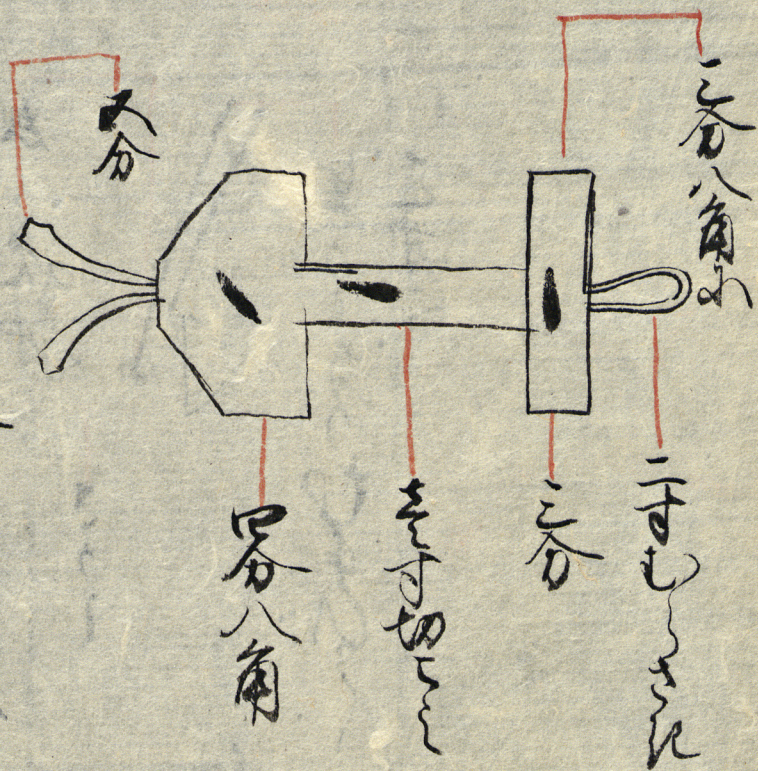
きりし  
九寸小用  
二寸めり  
公角



一 目の長サ七寸なり 此等の二つは

一 紙と容ふところ付

このすぢは容





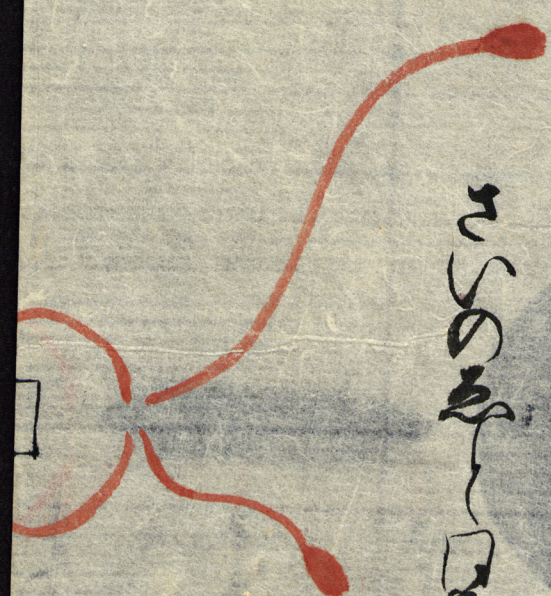
一 俗と考ふに

一 身の長かすなり 但身より

次

一 色の手金

一 色の手金





是志一統有

志九すし七す

さうし有



臨  
兵  
關  
者  
七  
陣  
川  
在  
前

リン  
ヒヤ  
ウ  
タ  
ウ  
シヤ  
カ  
イ  
チ  
ニ  
ツ  
サ  
セ  
ン



臨<sup>リン</sup>兵<sup>ヒヤウ</sup>闘<sup>タウ</sup>者<sup>シヤ</sup>皆<sup>カ</sup>陣<sup>チン</sup>列<sup>リン</sup>在<sup>ザイ</sup>前<sup>ゼン</sup>

一<sup>イチ</sup>と<sup>ト</sup>ふ<sup>フ</sup>と<sup>ト</sup>ん<sup>ン</sup>な<sup>ナ</sup>

庵<sup>アン</sup>摩<sup>マ</sup>利<sup>リ</sup>支<sup>シ</sup>曳<sup>エイ</sup>婆<sup>ハ</sup>婆<sup>ハ</sup>訶<sup>カ</sup>

たの<sup>タノ</sup>う<sup>ウ</sup>れ<sup>レ</sup>し<sup>シ</sup>書<sup>ショ</sup>出<sup>シュツ</sup>





ト  
尊

天上天下  
唯我獨尊  
行謨輪













右一卷古書家傳本之說

乃秘書執心不淺依學書之方

分授各平月所外復他見

此書有回浦者是



2

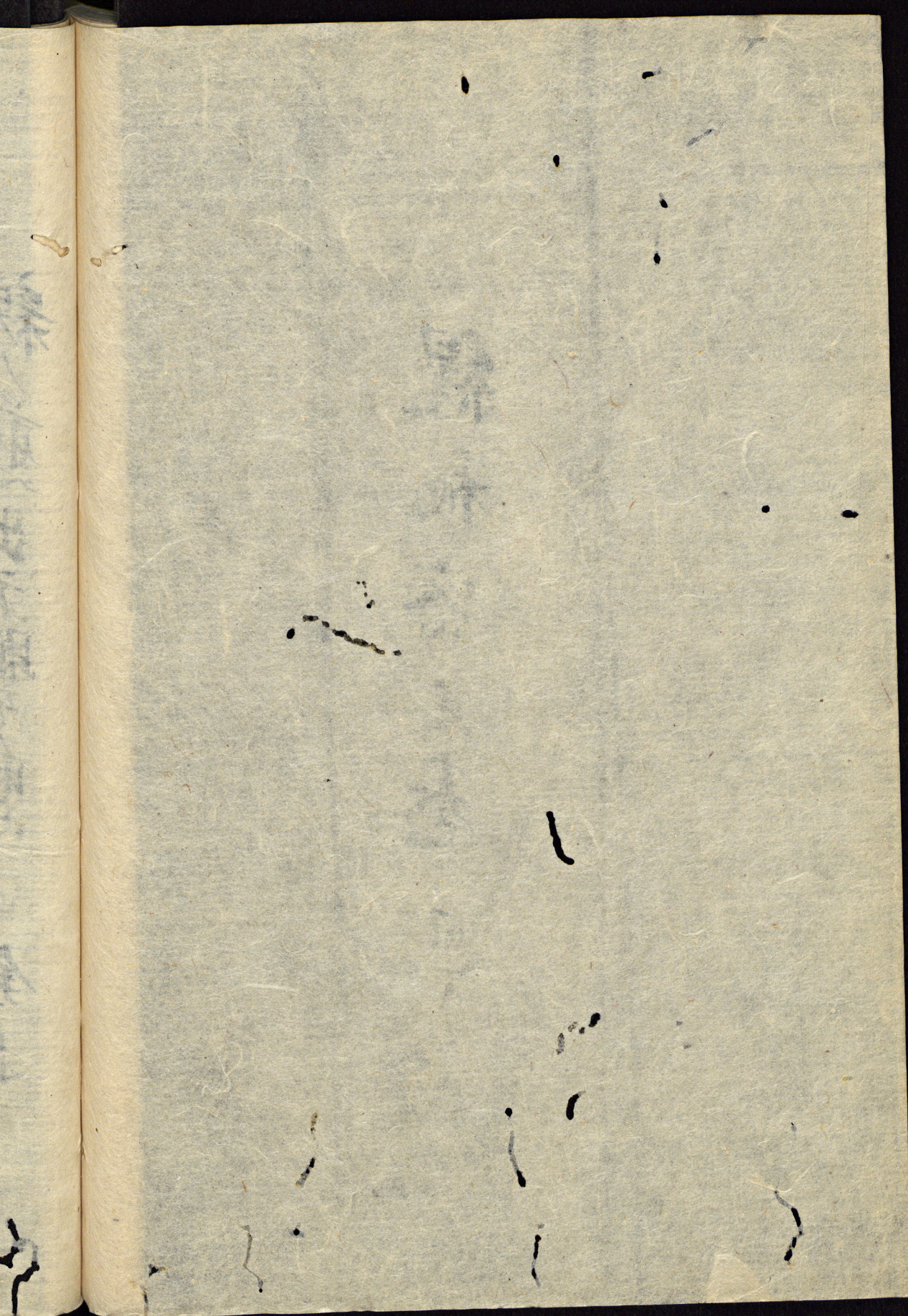
1



親  
秘  
密  
之  
卷

四  
十







纒七手懸拂秘密卷

第二

持佛堂ニテハ兩ノ足ヲ拂ニ右足

ホノ端ヲ同方ノ腰ニ挟メ右持佛

堂ニテ禮メ出取左ノ足ホヲ又同方

ノ腰ニ挟出ヘシ持佛堂ノ外ヘ出テ又

如本ニ懸ヘシ



第二

所ノ鎮守ノ前ニテ右中録ヲ拂テ  
同方ノ腰ニ挟ヘシサテ法施ナシテ致シ  
テ下向スルトキニ又如本カケテ可書  
右ノ手ニテ懸モスヘシ

第三

親ノ前ヘ出テ暇乞取兩ノ中録拂

テ左中録ヲ同方ノ袖上奉テワタ



親ノ前へ出テ暇乞取兩ノ中録拂

テ左ノ中録ヲハ同方ノ袖上奉テワタ

ガニニ授ヘシ右ノ中録ヲハ其俣放テ

親ニ向テ暇乞入ヘシ罷出時先左

カケテ次ニ右ヲカケテ出ヘシ若酒ア

ラハ拂タテ、盃ヲ取テ吞下シ取

左ノ中録ヲ取右ノ肩ヨリ背へ越テ

綿カニニ授テ酒ヲ吞ヘシ其後罷出

取先左ヲカケ次ニ右ヲ懸ヘシ



第四

主君ノ御前出シトセシ取兩ノ中祿ヲ  
拂テ其終放テ對面ニ奉テ出取右  
ヲカケ次ニ左ヲカケ可出若酒アラハ  
親ノ前ニテノ如ク中祿ヲ後ヨリ越テ  
右ノ綿カミニ掛シテ酒ヲ可吞其後罷  
出時先右ヲカケテ次ニ左ヲ懸テ出シ

第五

敵味方ホ立テ凱声ヲ作終刑ヲ



第五

敵味方ホ立テ凱声ヲ作箭ヲ  
射合セ下ル取心ヲ正安ニ東ヘ向テ  
日輪ヲ禮シテスルト觀念シテ勝名ノ  
緒ヲ兩手ニ兩緒ヲ取テ九字ノ又  
三返唱ル度ニ此緒ノ端ヲ以テ日輪ヲ  
招ク由ヲスセシ緒ヲハ兩手劍印シテ  
取ナリ其後馳入ニトスル取亦本ノ如ク  
懸テ馳入ベシ



第六

軍終り陳ニ飯テ祝酒ヲ先可吞  
其取ハ兩ノ富ミノ緒ヲ拂テ酒ヲ吞  
其後皆可拂勝軍ノ取ハ右ヨリシ  
負軍ノ取ハ左ヨリ拂ヘシ軍ヨリ飯テ  
酒ヲ不吞シ元拂ハ畧儀ナリ

第七

亡環ノ前ニ行取ハ兩ノ勝名ノ緒ヲ

拂ヘシ若ノ裏越テ甲ヲ可変テ



亡魂ノ前（行敗ハ兩ノ勝名ノ緒ヲ

拂ヘシ右ノ裏越テ押付ニ可校左ノ

緒ヲトリ胸抜ニサシテ礼シテ下向

ノ時ニ至テ右ノ手ニテ左ノ緒ヲ取

テ如本掛テ可出ナリ

右以上七ノ掛拂者甚秘之

口傳也唯授一人千金莫傳

是ヲ灌頂卷ト云當家之秘術也



清和天皇後胤自

源義家公當家代々

小笠原長時

全 貞慶

此卷者當家之面々所持之人



此卷者當家之面々則持之

少々候故其心得ヲ以テ他人  
御免有間敷候依懇望深  
切書寫進之也





海山仙館  
抄本其間亦有













H+K 2

GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart

15.01.2002